

## 令和6年度策定 画図校区社会福祉協議会行動計画書

画図校区社会福祉協議会

基本理念	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	行動計画
ボランティア・担い手	ボランティア・担い手	若年層のボランティア・担い手不足 各種団体で養成されたボランティアの整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体（自治会・老人会・子ども会・婦人部等）加入者の減少</li> <li>各種団体における役員のなり手不足</li> <li>自治会への未加入世帯</li> <li>近隣住民の関係が希薄化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内役員の世代交代（若い世代の自治会活動への参画）</li> <li>次世代を担う世代が参加できるような行事の周知（情報提供）</li> <li>近隣住民の支え合い（お互いが出来ることを出来るだけ）</li> <li>自治会の全員加入を目指す（加入率の向上促進）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアの登録整理と活用（コーディネート）</li> <li>近隣住民、隣保班での見守り活動</li> <li>ふれあいきいきサロンの継続・充実（eスポーツなど新しい活動を取り入れる）</li> <li>ふれあいデイサービスの再開</li> <li>江津湖ウォークラリーの継続</li> <li>介護事業所との連携</li> <li>他団体事業への相互支援</li> </ul>
広報	広報	校区社協や取り組みなどに対する理解が得られていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区社協や地域活動に対する理解が得られていない</li> <li>地域活動の情報発信ができていないため、興味・関心を持ってもらえていない</li> <li>地域活動の担い手不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治協ホームページで校区社協や活動の紹介</li> <li>楽しい行事や企画などを実施する</li> </ul>	
高齢者	高齢者	高齢者問題（独居、認知症の増加、孤独死、虐待）の支援体制 健康、介護予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者に対する理解不足（若い人の理解が必要）</li> <li>他者との関わりを拒む人がいる（老人会に入らない等）</li> <li>個人情報の問題・情報の共有が難しい</li> <li>支援する側の高齢化</li> <li>公営団地等の老朽化（50年以上）</li> <li>8050問題</li> <li>買い物、重いごみ出しの問題</li> <li>自助・共助の活動にあたり自身の健康維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡易な集いの場づくり（庭先等に集まり話ができる場が必要）</li> <li>散歩しながら声かけ（見守り）、パトロールを心掛ける</li> <li>校区社協で隣保班を活用した見守りチームを作る</li> <li>高齢者、またその家族とのコミュニケーションの機会を増やす</li> <li>買い物、電球交換など出来ることを支援</li> <li>校区社協主催のふれあい・きいきサロン及び介護予教室の継続</li> <li>関係機関が開催するオレンジカフェへの協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難行動支援者支援制度への登録勧奨、個人避難支援者への協力依頼</li> <li>熊本市社会福祉協議会自主避難サポート（旧 高齢者SOSサービス）事業実施</li> <li>障がい者相談支援機関との連携及び研修会の企画、開催</li> <li>命のバトンの整備（民生委員を通じて現状把握）</li> <li>ジュニアヘルパーとの交流</li> <li>社協活動の広報（ホームページやSNS発信など）</li> </ul>
障がい者	障がい者	障がい者への支援体制、相談先が分からぬ	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの種別の把握が難しく、どう支援してよいか分からない</li> <li>地域での支援には限界がある</li> <li>個人情報の問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供ができる仕組み作り</li> <li>当事者や家族とのコミュニケーションの機会を増やす</li> <li>障がい者相談支援センターの出張相談・出前講座の開催（障がい者について、理解を深める機会の場の提供）</li> </ul>	
災害・防災	災害・防災	防災・日頃の備え・避難支援体制（防災と福祉は密接）	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の支援、高齢者・障がい者等の避難支援体制が不十分</li> <li>避難所が分からない、遠い</li> <li>水害発生時は避難先となる高い建物がない</li> <li>個人情報の問題がある</li> <li>災害時要援護者避難支援プランの約8割に個人支援者がいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区防災連絡会との連携強化（地区防災計画）</li> <li>町内の協力体制の構築</li> <li>町内毎のハザードマップの作成</li> <li>関係機関に協力してもらいSNSを活用する</li> <li>町内での防災訓練実施（高齢者、障がい者等の災害時要援護者の参加呼びかけ）</li> <li>水害時の予測、推移と避難経路の周知</li> <li>子ども達に人命救助等防災訓練</li> </ul>	
子ども・世代間交流	子ども・世代間交流	子育て世帯の繋がりの希薄化 世代間交流が十分でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内によっては、地域の子ども達の把握ができない</li> <li>子育て世代は共働きで多忙のため、親に時間、心身の余裕がない</li> <li>子育て世代の貧困問題</li> <li>登下校時の安全確保</li> <li>他者との交流を拒む人もいる（子ども会・自治会に入らない）</li> <li>個人情報の問題（情報共有が難しい）</li> <li>子どもも神輿は30年続いているが参加人数が減少している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子や高齢者と子どもがふれあうイベントの企画・実施</li> <li>昔遊び（しめ縄・竹とんぼ）で高齢者との交流を図る</li> <li>関係機関協力のもと子ども食堂の企画、実施</li> <li>挨拶・声かけの取り組み</li> <li>下校時の声かけ、パトロール</li> <li>世代間交流の中から担い手発掘</li> </ul>	

声かけて、幸せ湧く和く画図のまち♪  
 ふれあい・たすけあい・ささえあい（愛）